

令和2年度

生駒市立病院 中間報告書（案）

目 次

診療科目	1
病床数	3
人員体制	5
患者数	7
質の高い医療の提供	9
地域完結型の医療体制構築への寄与	15
救急医療の充実	19
小児医療の充実	23
災害時医療の確保	23
予防医療の啓発	23
市民参加による運営	25
環境に配慮した運営	25
収支	27

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>診療科目</p> <p>14診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科</p> <p>上記以外の診療科については、市民ニーズ等の必要に応じて、指定管理者と協議し、追加できるものとします。</p>	<p>16診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 血管外科 皮膚科</p> <p>診察日・診察時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察日 月曜日～土曜日 (祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く) ・診察時間 午前 9:00～12:00 夕方 17:00～19:00(土曜日除く) ・受付時間 午前 8:00～12:00 夕方 16:30～19:00(土曜日除く) <p>・既存の診療科の医療内容の充実を目指し、常勤医師の確保を図ります。</p> <p>・患者の医療ニーズに対応した専門外来の充実を図ります。</p> <p>・院内の診療科間の連携及びより高次、専門性の高い医療機関との連携を進めます。</p>	<p>16診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 血管外科 皮膚科</p> <p>診察日・診察時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察日 月曜日～土曜日 (祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く) ・診察時間 午前 9:00～12:00 夕方 17:00～19:00(土曜日除く) ・受付時間 午前 8:00～12:00 夕方 16:30～19:00(土曜日除く) <p>既存の診療科について、常勤医師（小児科、内科、消化器内科、形成外科）の確保を図りました。</p> <p>また、より高次、専門性の高い医療機関との連携体制（脳神経外科、心臓血管外科等における近畿大学奈良病院や奈良県総合医療センターとの連携体制）を推進しました。</p>

〈診療科目〉
令和2年度上半期において、診療科の変更なし

〈その他〉

内容	開始時期	診察時間	R2中間	R1中間
総合診療科（内科系、外科系を含めて総合的に診察）	H27. 7～	月～金 17:00～19:00	1,192件	1,387件
大学の腎臓泌尿器科外科教授による特別外来	H27. 9～	月2回 PM（予約制）	154件	140件
がん治療相談外来 ※1（放射線科）	H27. 10～	週1回 AM		
ペイン（痛み）外来（麻酔科）	H27. 11～	月2回 AM	74件	145件
助産外来 ※1（産婦人科）	H28. 4～	週1回 PM		
フットケア外来（形成外科）	H28. 6～	週3回 AM	286件	354件
乳腺・甲状腺外来（外科）	H29. 10～	週1回 AM	548件	676件
小児アレルギー外来（小児科）	H30. 12～	週1回 PM	45件	21件
まぶた外来 ※2（形成外科）	H28. 12～			
アンチエイジング外来 ※2（形成外科）	H29. 4～	週4回 PM 週1回 AM	342件	439件
レーザー外来 ※2（形成外科）	H29. 8～			
下肢静脈瘤外来 ※2（形成外科）	H31. 4～			

※1 がん治療相談外来、助産外来については、一般外来患者数に含めて算出しているため、件数の算出が不可能

※2 まぶた外来・アンチエイジング外来・レーザー外来・下肢静脈瘤外来については、形成外科（専門外来）として同一で予約枠を設定しているため、件数の算出が不可能

＜高次、専門性の高い医療機関との連携実績＞

・近畿大学奈良病院：整形外科、脳神経外科、放射線科、血液内科、膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉科、循環器内科、産婦人科、腎臓内科、呼吸器科等との連携

・奈良県総合医療センター：泌尿器科、心臓血管外科、小児科、脳神経外科、呼吸器内科、循環器内科、耳鼻咽喉科、整形外科、腎臓内科、歯科口腔外科、精神科、呼吸器外科、感染症内科等との連携

○高次、専門性の高い医療機関である近畿大学奈良病院及び奈良県総合医療センターと幅広い診療科において、病病連携している。

○質の高い医療の提供を目指し、特定の疾患や症状について、専門的な診療・治療を行う専門外来が定着してきている。

課題

今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指すとともに、引き続きより広く専門外来の設置を目指していく必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
病床数	病床数 210床	(令和3年3月31日) 実稼働可能病床数 210床	(令和2年9月30日) 実稼働可能病床数 210床
	ICU 7床 小児科 20床 産婦人科 20床 内科系 79床 外科系 84床	小児科 5床 産婦人科 19床 内科系 87床 外科系 91床 HCU 8床 病棟編成 5病棟、7対1看護基準（一般） 4対1看護基準（HCU）	小児科 5床 産婦人科 19床 内科系 87床 外科系 91床 HCU 8床 病棟編成 5病棟、7対1看護基準（一般） 4対1看護基準（HCU） 新型コロナウイルス感染症疑い患者の入院 受入病棟として、5階東病棟を一部専用病棟 化しました。
		<p>救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受入に取り組めます。</p> <p>小児科の常勤医師の増員により、小児科の救急医療や入院医療の体制を整備します。</p>	<p>救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる消化器内科等常勤医師を確保しました。また、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組めました。</p> <p>小児科の常勤医師の増員により、小児科の診療時間内の救急医療に対応し、入院医療の体制を整備しました。</p>

令和2年度 中間報告の補足説明

取組の評価・課題

	R2中間	R1	増減
実稼働可能病床数	210	210	0
小児科	5	5	0
産婦人科	19	19	0
内科系	87	87	0
外科系	91	91	0
HCU	8	8	0

看護基準

令和元年12月以降10対1から7対1へアップしました。

1日平均病床利用率

(R元年度4月～9月：60%→R2年度4月～9月：48%)

4階西病棟

小児科・産婦人科と女性の一般患者を対象とした混合病棟

4階東病棟

整形外科、腎臓泌尿器科

5階西病棟

循環器内科、血管外科、形成外科、一般内科

5階東病棟

外科、消化器内科

<HCU (High Care Unit)>

- ・準集中治療室
- ・専任の常勤医師が常時院内に勤務していることが必要
- ・看護基準4対1

<参考：HCUの稼働状況>

	R2中間		R1中間		増減	
	延べ人数	病床利用率	延べ人数	病床利用率	延べ人数	病床利用率
4月	185	77.1%	178	84.8%	7	△7.7%
5月	161	64.9%	186	85.7%	△25	△20.8%
6月	169	70.4%	158	75.2%	11	△4.8%
7月	202	81.5%	198	79.8%	4	1.7%
8月	187	75.4%	170	68.5%	17	6.9%
9月	198	82.5%	184	76.7%	14	5.8%
合計	1,102	75.3%	1,074	78.2%	28	△2.9%

1日最大稼働病床数 (R2年度4月～9月)

141床 (病床利用率：141床÷210床=67.1%)

月平均新入院患者数 (R2年度4月～9月) 220.8人

平均在院日数 (R2年度4月～9月) 13.9日

○7対1看護基準が維持されており、手厚い看護体制が引き続き取られている。

○新型コロナウイルス感染症疑い患者の積極的な入院受け入れにより、地域のコロナ対応に貢献できている。

課題

病床利用率の落ち込みの主な原因は、新型コロナウイルス感染症の影響の他、整形外科常勤医師の不在によるものであることから、不足する診療科の常勤医師の確保に引き続き努める必要がある。

また、小児科常勤医師を2名に増員できたことから、北和小児科二次輪番体制への参加をはじめ、休日夜間応急診療所の小児二次救急医療体制のバックアップ機能をさらに充実する必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和2年度 事業計画		令和2年度 中間報告																									
人員体制 人員体制については、開院当初は、1日平均想定患者数（外来300名、入院140名と仮定）による医療法規定人員数に基づき、次のとおり整えます。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>医師</td><td>25名</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>80名</td></tr> <tr><td>薬剤師</td><td>6名</td></tr> <tr><td>理学療法士</td><td rowspan="3">3名</td></tr> <tr><td>作業療法士</td></tr> <tr><td>言語聴覚士</td></tr> <tr><td>放射線技師</td><td>6名</td></tr> <tr><td>検査技師</td><td>7名</td></tr> <tr><td>栄養士</td><td>2名</td></tr> <tr><td>看護助手</td><td>29名</td></tr> <tr><td>事務職員等</td><td>40名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>198名</td></tr> </tbody> </table>	職種	人数	医師	25名	看護師	80名	薬剤師	6名	理学療法士	3名	作業療法士	言語聴覚士	放射線技師	6名	検査技師	7名	栄養士	2名	看護助手	29名	事務職員等	40名	合計	198名	（令和3年3月31日）		（令和2年9月30日）	
		職種	人数																										
		医師	25名																										
		看護師	80名																										
		薬剤師	6名																										
		理学療法士	3名																										
		作業療法士																											
		言語聴覚士																											
		放射線技師	6名																										
		検査技師	7名																										
栄養士	2名																												
看護助手	29名																												
事務職員等	40名																												
合計	198名																												
医師	内科	常勤	4名	内科	5名																								
	消化器内科		1名	消化器内科	1名																								
	循環器内科		2名	循環器内科	2名																								
	外科		2名	外科	2名																								
	脳神経外科		1名	脳神経外科	0名																								
	整形外科		1名	整形外科	0名																								
	形成外科		3名	形成外科	4名																								
	小児科		2名	小児科	2名																								
	腎臓泌尿器科		1名	腎臓泌尿器科	1名																								
	産婦人科		2名	産婦人科	2名																								
	リハビリテーション科		0名	リハビリテーション科	0名																								
	放射線科		1名	放射線科	0名																								
	救急科		1名	救急科	1名																								
麻酔科		2名	麻酔科	2名																									
血管外科		1名	血管外科	1名																									
皮膚科		1名	皮膚科	1名																									
	計		25名	計	24名																								
看護師	外来部門		40名	外来部門	40名																								
	入院部門		99名	入院部門	91名																								
	内) 准看護師		3名	内) 准看護師	3名																								
	内) 助産師		15名	内) 助産師	13名																								
	内) 保健師		0名	内) 保健師	0名																								
	計		139名	計	131名																								
その他	薬剤師		13名	薬剤師	14名																								
	理学療法士		11名	理学療法士	10名																								
	作業療法士		1名	作業療法士	1名																								
	言語聴覚士		2名	言語聴覚士	3名																								
	放射線技師		9名	放射線技師	9名																								
	検査技師		10名	検査技師	10名																								
	栄養士		3名	栄養士	3名																								
	看護助手		22名	看護助手	16名																								
	臨床工学技士		6名	臨床工学技士	7名																								
	事務職員等		49名	事務職員等	43名																								
	計		126名	計	116名																								
	合計		290名	合計	271名																								
○医療従事者の確保の方法について （医師の確保） 特に常勤医師が不足している脳神経外科、小児科、消化器内科、整形外科の診療科を中心に、常勤医師の確保、増員を図ります。 医師事務作業補助者を増員し、医師の業務負担の軽減を図るなど、医師の働き方改革の取組として、引き続き勤務環境の改善を行います。		○医療従事者の確保の方法について （医師の確保） 常勤医師に関しては、グループ内転勤により内科1名、医局人事により形成外科1名、勤務希望者の募集等により、消化器内科1名、小児科1名、形成外科2名が入職しました。 医師事務作業補助者を確保したことにより、さらなる医師の業務負担軽減のための勤務環境改善の取組を行いました。																											
（看護師、医療スタッフ等の確保） ・引き続き学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、再就職支援のための研修、多様な勤務形態の導入等を行います。 ・研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に継続して取り組みます。 ・薬剤師の増員により、引き続き、病棟薬剤業務の充実を図ります。 ・7対1の看護基準により、深夜時間帯の病棟看護師の増員など、さらなる看護ケアの充実を図ります。 ・多職種によるチーム医療を充実させ、医師や看護師の業務負担軽減などを目的として多職種連携会議を定期的に開催します。		（看護師、医療スタッフ等の確保） ・学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、再就職支援のための研修、多様な勤務形態の導入等を行いました。 ・研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に取り組みました。 ・薬剤師を3名増員させたことにより、病棟薬剤業務の充実を図りました。 ・7対1の看護基準により、深夜時間帯の病棟看護師の増員など、さらなる看護ケアの充実を図りました。 ・多職種によるチーム医療を充実させ、事務・コメディカル会議で話し合い、業務負担軽減に努めました。 ・高気圧酸素治療装置の導入により、臨床工学技士を2名増員しました。																											

令和2年度 中間報告の補足説明

取組の評価・課題

	R2中間		R 1		増減	
	常勤	常勤換算	常勤	常勤換算	常勤	常勤換算
内科	5	5.7	4	4.9	1	0.8
消化器内科	1	1.2	0	0.2	1	1.0
循環器内科	2	2.0	2	2.0	0	0.0
外科	2	2.0	2	2.0	0	0.0
脳神経外科	0	0.2	0	0.2	0	0.0
整形外科	0	0.6	0	0.3	0	0.3
形成外科	4	4.1	1	1.5	3	2.6
小児科	2	2.2	1	1.2	1	1.0
腎臓泌尿器科	1	1.6	2	2.4	△ 1	△ 0.8
産婦人科	2	3.2	2	3.0	0	0.2
リハビリテーション科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放射線科	0	0.6	1	1.0	△ 1	△ 0.4
救急科	1	2.6	1	2.7	0	△ 0.1
麻酔科	2	2.1	2	2.0	0	0.1
血管外科	1	1.0	1	1.0	0	0.0
皮膚科	1	1.1	1	1.1	0	0.0
計	24	30.2	20	25.5	4	4.7
外来部門	40	48.3	39	44.7	1	3.6
入院部門	91	97.8	80	86.7	11	11.1
内) 准看護師	3	3.0	3	3.0	0	0.0
内) 助産師	13	14.3	13	14.3	0	0.0
内) 保健師	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	131	146.1	119	131.4	12	14.7
薬剤師	14	14.7	11	11.8	3	2.9
理学療法士	10	10.0	11	11.0	△ 1	△ 1.0
作業療法士	1	1.0	1	1.0	0	0.0
言語聴覚士	3	3.0	2	2.0	1	1.0
放射線技師	9	9.0	8	8.0	1	1.0
検査技師	10	10.0	9	9.0	1	1.0
栄養士	3	3.0	3	3.0	0	0.0
看護助手	16	17.4	17	18.5	△ 1	△ 1.1
臨床工学技士	7	7.0	5	5.0	2	2.0
事務職員等	43	47.8	45	49.2	△ 2	△ 1.4
計	116	122.9	112	118.5	4	4.4
合計	271	299.2	251	275.4	20	23.8

(常勤換算数)

常勤換算数＝非常勤職員の勤務時間の合計÷常勤職員が勤務するべき時間

(令和2年9月30日現在の非常勤職員数)
医師 57名、看護師 20名、その他 12名

(医師の業務軽減)
・医師事務作業補助者 7名 (内科系 1名、外科 1名、整形外科 1名、産婦人科 1名、形成外科・小児科・皮膚科 2名、フリー 1名)

(看護師、医療スタッフ等の確保対策)
・院内保育所の設置 利用スタッフ数 22名
・研修参加費用の補助 学会への出張旅費等
・看護実習生の受入 306名
・時短勤務 7名、産休・育休利用 11名

(専門的な知識と技術を持った看護師)
認定看護管理者 1名、がん化学療法看護認定看護師 1名、皮膚排泄認定看護師 1名、慢性腎臓病療養指導看護師 2名、透析技術認定士 2名、フットケア指導士 2名、糖尿病療法指導士 1名、腎臓病療養指導士 2名 (延べ人数)

(専門的な知識と技術を持った薬剤師)
漢方薬・生薬認定薬剤師 1名、外来がん治療認定薬剤師 1名、NST専門療法士※ 2名、糖尿病指導療法士 1名、サプリメントアドバイザー 1名 (延べ人数)
※NST (栄養サポートチーム) 専門療法士とは、入院患者を対象に最良の栄養サポートを行う管理栄養士等が目指す資格のこと。

○薬剤師を増員させたことにより、病棟薬剤管理をはじめ入院患者への薬剤に関する説明等病棟薬剤業務の充実が図られている。

○検査技師を増員させたことにより、生理検査部門の充実が図られている。

○臨床工学技士の増員により、高気圧酸素治療装置の積極的な利用を推進している。

○医師事務作業補助者を確保したことにより、カルテの代行入力や診断書、紹介状等の各種文書作成等さらなる医師の業務負担軽減を進めている。

○医療従事者の育児休業からの復職支援として時短勤務を導入するなど、出産、育児といったライフステージに応じた就労支援の取組がなされている。

課題
救急医療・入院医療を充実させるため、引き続き不足する脳神経外科及び整形外科の常勤医師を確保する必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）		令和2年度 事業計画			令和2年度 中間報告		
患者数	1日平均患者数			1日平均患者数			
		入院	外来		入院	外来	
	4月	130.0 人	204.0 人	4月	97.3 人	154.0 人	
	5月	130.0 人	206.0 人	5月	94.3 人	147.0 人	
	6月	130.0 人	213.0 人	6月	87.9 人	182.9 人	
	7月	130.0 人	215.0 人	7月	99.8 人	204.2 人	
	8月	135.0 人	222.0 人	8月	116.7 人	201.9 人	
	9月	135.0 人	220.0 人	9月	104.4 人	213.3 人	
	10月	135.0 人	230.0 人	上半期平均	100.1 人	183.9 人	
	11月	135.0 人	230.0 人				
	12月	140.0 人	235.0 人				
	1月	140.0 人	235.0 人				
	2月	145.0 人	237.0 人				
	3月	145.0 人	237.0 人				
	年間平均	135.8 人	223.6 人				
		<p>○入院・外来患者数の増加に向けた取組 入院医療に対応できる常勤医師の確保、救急を含む外来診療体制の維持のための非常勤医師の確保、地域医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施することにより、入院・外来患者数の増加を目指します。</p> <p>（市民への周知の取組） ・院内の広報委員会による広報活動の強化 ・ホームページ、SNS（ツイッター、Facebook）、病院だより等による広報活動の推進</p> <p>・医療講演会の推進 ・拡大医療講演会を年4回程度開催（市内北・中・南の3地区で開催）</p> <p>（地域の医療機関への周知の取組） ・地域医療連携室による地域の医療機関への積極的な情報提供を推進します。 ・病診連携懇話会を開催し、症例検討会や市立病院の医療連携実績の報告など地域の開業医との「顔の見える関係性」を構築します。</p>			<p>○入院・外来患者数の増加に向けた取組 年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響や、整形外科常勤医師の不足により、入院・外来ともに患者数が伸び悩んでいましたが、地域医療機関との連携推進のほか、市民や地域の医療機関へ、市立病院の医療に関する必要な情報をそれぞれ積極的に提供し、徐々に患者数も増えてきました。</p> <p>（市民への周知の取組） ・広報委員によるホームページ、ブログ等のチェック、随時更新の実施</p> <p>・ツイッターの運用に加え、令和2年5月からLINE公式アカウントを開始しました。 令和2年9月末現在登録者数 344人</p> <p>〈LINE公式アカウントの掲載例〉 ・新型コロナウイルス感染症対策 ・健診・人間ドックについて ・医療講演のお知らせ ・入院患者への面会制限について ・お見舞いメールの運用 ・インフルエンザワクチン予防接種について</p> <p>・病院だよりの発行（令和元年8月以降毎月1日発行）</p> <p>・医療講演会 22講座 参加者 243名 （内オンライン開催 13講座 参加者 47名） ・拡大医療講演会を北地区において、5月17日開催予定で自治会関係者等と調整しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。</p> <p>（地域の医療機関への周知の取組） ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 1,548件（令和元年度上半期 802件）、延べ255施設 令和元年8月以降、地域医療機関への情報提供について、従来郵送していた診療情報提供書と病院だよりの配布を、郵送から直接訪問へと変更したため、件数が増加しました。</p> <p>・病診連携懇話会は新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の開催を見送りました。</p>		

令和2年度 中間報告の補足説明

取組の評価・課題

〈入院〉

	R2中間		R1中間		増減	
	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均
内科	3,514	19.2	4,214	23.0	△ 700	△ 3.8
消化器内科	414	2.3	441	2.4	△ 27	△ 0.1
循環器内科	5,105	27.9	2,682	14.7	2,423	13.2
外科	4,548	24.9	4,662	25.5	△ 114	△ 0.6
整形外科	0	0.0	4,983	27.2	△ 4,983	△ 27.2
形成外科	3,024	16.5	2,199	12.0	825	4.5
小児科	157	0.9	177	1.0	△ 20	△ 0.1
腎臓泌尿器科	548	3.0	461	2.5	87	0.5
産婦人科	845	4.6	850	4.6	△ 5	△ 0.0
血管外科	166	0.9	2,531	13.8	△ 2,365	△ 12.9
合計	18,321	100.1	23,200	126.8	△ 4,879	△ 26.7

※循環器内科入院患者の増加、血管外科入院患者の減少については、両診療科兼任医師が、血管外科の患者数を循環器内科で算定したため。

〈外来〉

	R2中間		R1中間		増減	
	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均
内科	8,317	45.4	8,028	43.9	289	1.5
消化器内科	613	3.3	768	4.2	△ 155	△ 0.9
循環器内科	2,674	14.6	3,034	16.6	△ 360	△ 2.0
外科	3,334	18.2	3,912	21.4	△ 578	△ 3.2
脳神経外科	396	2.2	504	2.8	△ 108	△ 0.6
整形外科	2,240	12.2	7,565	41.3	△ 5,325	△ 29.1
形成外科	4,603	25.2	4,244	23.2	359	2.0
小児科	536	2.9	811	4.4	△ 275	△ 1.5
腎臓泌尿器科	2,420	13.2	2,213	12.1	207	1.1
産婦人科	2,448	13.4	2,149	11.7	299	1.7
放射線科	263	1.4	324	1.8	△ 61	△ 0.4
麻酔科	30	0.2	79	0.4	△ 49	△ 0.2
血管外科	204	1.1	269	1.5	△ 65	△ 0.4
皮膚科	1,735	9.5	1,220	6.7	515	2.8
透析	1,990	10.9	1,580	8.6	410	2.3
健診・ドック	1,849	10.1	1,558	8.5	291	1.6
合計	33,652	183.9	38,258	209.1	△ 4,606	△ 25.2

参考：達成率（上半期実績平均÷上半期計画平均）

- ・入院：100.1人÷131.7人＝ 76.0%
- ・外来：183.9人÷213.3人＝ 86.2%

〈Facebookの掲載例〉

- ・オンライン医療講演のお知らせ
- ・お見舞いメールの運用のお知らせ
- ・インフルエンザワクチン予防接種の案内

〈情報発信モニターの掲載例〉

- ・薬の案内
- ・予防接種のお知らせ
- ・会計の案内
- ・人間ドック・脳ドックの案内
- ・看護師募集

〈医療講演会の内容例〉

- ・乳がんについて
- ・高気圧酸素治療について
- ・不眠症と睡眠薬について
- ・お家でできる感染対策
- ・超音波（エコー）検査でわかること

〈地域の医療機関への情報提供等の内容例〉

新任医師の紹介、外来予定表、医療講演会の案内など

○病院だよりの定期的な発行をはじめ、院内の広報委員会による広報活動の取組の強化など市民への周知の取組が強化されている。

○地域の医療機関への情報提供等訪問回数が増加しており、地域の医療機関への周知の取組が強化されている。

○LINE公式アカウントにおいて、お見舞いメール及びオンライン医療講演会の申込み等ができることにより、イベントの周知などの取組が市民により認識しやすい方法で実施されている。

課題

入院患者数及び外来患者数ともに計画を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の対応を強化するために、不足する常勤医師の確保に努めるとともに、地域の医療機関との病病連携及び病診連携をより一層進める必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○質の高い医療の提供 生駒市の地域医療の問題点を踏まえ、政策的に実施すべき医療事業を確実に実施し、市民満足度の高い、質の高い医療を提供する。</p>	<p>安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、豊富なキャリアを積んだ医師や看護師、コメディカルスタッフがチーム医療で、患者にとってベストな治療・ケアを行います。</p> <p>DPC対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図ります。</p> <p>引き続き、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術やダ・ヴィンチ手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みます。</p> <p>また、ダ・ヴィンチ手術については、医療需要に応じて、対応できる症例の拡大を目指します。</p> <p>患者アンケートやご意見箱の内容を反映した心温まる医療サービスの提供を目指します。</p> <p>○医療サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術件数（全体） 1,266件 <ul style="list-style-type: none"> 外科 390件 形成外科 690件 腎臓泌尿器科 78件 産婦人科 108件 ・分娩件数 150件 ・産科交流会 母子同士の交流、育児情報の提供等、産後のサポートを行います。 ・市の産後ケア事業への参加を予定しています。 ・医療機器等の整備 リニアックなど将来対応の医療機器等の整備の方向性について、今後の県内の医療動向を注視していきます。 	<p>安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、入院診療計画策定時から多職種が参加して最適な治療方法を策定するなど、チーム医療を実施しました。</p> <p>DPC対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図りました。</p> <p>腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術、ダ・ヴィンチ手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みました。</p> <p>また、患者の意見を可能な限り尊重したうえで、患者の思いに寄り添った医療サービスの提供を目指しました。</p> <p>○医療サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術件数（全体） 645件 <ul style="list-style-type: none"> 外科 148件 形成外科 362件 腎臓泌尿器科 49件 産婦人科 62件 放射線科 3件 血管外科 21件 ・分娩件数 82件 ・産科交流会 新型コロナウイルス感染症の影響により上半期は延期 ・市の産後ケア事業へ参加しました。 サポート人数 1人 (院内において出産直後にショートステイを利用) ・医療機器等の整備 (導入機器) 人工呼吸器 3台

(科目別手術件数)

	R2中間	R1中間	増減
外科	148	154	△ 6
整形外科	0	87	△ 87
形成外科	362	321	41
腎臓泌尿器科	49	17	32
産婦人科	62	44	18
放射線科	3	4	△ 1
血管外科	21	25	△ 4
皮膚科	0	4	△ 4
合計	645	656	△ 11

・上記以外の件数
心臓カテーテル件数：60件、PCI：28件、内視鏡的手術：103件
(令和元年度上半期：心臓カテーテル：76件、PCI：46件、内視鏡的手術：149件)

・主な外科手術例
乳腺悪性腫瘍手術、甲状腺悪性腫瘍手術など

・主な形成外科手術例
皮膚悪性腫瘍切除術、眼瞼下垂症手術など

・主な産婦人科手術例
子宮悪性腫瘍手術、緊急帝王切開術など

・主な腎臓泌尿器科手術例
経尿道的前立腺手術など

<腹腔鏡下手術> (胸腔鏡下手術を含む)

	R2中間	R1中間	増減
件数	33	23	10

<ダ・ヴィンチ手術>

	R2中間	R1中間	増減
件数	8	1	7

※対応症例は、前立腺がん

<分娩件数>

	R2中間	R1中間	増減	
県内	市内	46	47	△ 1
	市外	10	15	△ 5
	計	56	62	△ 6
県外	26	18	8	
合計	82	80	2	

<助産制度の実績>

	R2中間	R1中間	増減
件数	1	0	1

※市立病院は、児童福祉法第36条に規定する助産施設

・ハイリスク分娩への対応は、奈良県総合医療センターと連携を取っています。(件数：1件)

<DPC病院>

平成30年4月にDPC※準備病院の届出をし、令和2年4月からDPC対象病院となりました。

※DPC:Diagnosis(診断) Procedure(行為) Combination(組合せ)の略で、急性期病院を中心に導入が進められている包括払い制度のことです。

<ジェネリック医薬品>

使用率：83.3% (グループ全体使用率：83.0%)

主な使用例：ピアーレシロップ (ラクツロースシロップ)
レバミピド (ムコスタ)

○産後のサポートなど安心して出産できる体制が整っており、地域の診療所、助産所からの紹介や里帰り出産を多く受け入れている。また、第1子出産後、2子目と続けて出産される利用者が増えている。

さらに、外国語に対応できる助産師を配置していることで、外国人の出産等にも対応できている。

○市の産後ケア事業に参入することで、産後の授乳指導・育児相談や母子のケア等を行い、母親の育児等を支援した。

○質の高い医療提供、医療の効率化、透明化を実現するため、DPCを導入した。

課題

整形外科において、手術対応が可能な常勤医師を確保する必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、徹底した感染管理に努めながら、質の高い医療提供体制を継続して整備する必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
	<p>主要疾病（4疾病）に係る医療体制 がん 地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院）と連携のもと精密検査や病理診断、手術療法、化学療法によるがん治療体制の充実</p> <p>脳卒中 近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センターとの連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制の充実</p> <p>急性心筋梗塞 奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・P C I が24時間365日可能な体制の充実</p> <p>糖尿病 かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療の充実</p> <p>○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査の実施</p> <p>・ご意見箱の内容に対応 アンケート調査結果やご意見箱の意見などについて、ホームページ・病院だより等で公表し、市立病院管理運営協議会へ報告します。</p> <p>・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 新人職員を対象とした接遇研修をはじめ院内スタッフ対象の接遇研修を充実します。</p> <p>・院内における接遇委員会を定期的に開催し、接遇の向上を図ります。</p>	<p>主要疾病（4疾病）に係る医療体制 がん 地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）と連携のもと精密検査や病理診断、手術療法、化学療法によるがん治療体制を確保しています。</p> <p>脳卒中 近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制を確保しています。</p> <p>急性心筋梗塞 奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・P C I が24時間365日可能な体制を確保しています。</p> <p>糖尿病 内科、循環器内科、形成外科及び血管外科において、かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療を実施しています。</p> <p>○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査を11、12月に実施予定</p> <p>・退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。（回答総数 496件） ・ご意見箱の内容に対応 患者アンケート及びご意見箱等の内容に対して、迅速に対応するとともに、下半期にホームページ・病院だより等で公表し、生駒市立病院管理運営協議会へ報告する予定です。</p> <p>・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 4/2 新入職員向け接遇研修</p> <p>・院内における接遇委員会を月1回開催（看護部では月1回服装チェックなどを実施） 毎日の朝礼にて、事務職員対象に接遇向上の周知</p>

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>医療における安全管理に対する取組</p> <p>●安全管理マニュアルの策定について 各部署からリスクマネージャーを選任し、院内にリスクマネジメント委員会を設置します。また、リスクマネジメント委員会は隔週開催し、医療安全管理者を中心に報告事例をもとにマニュアル化し、たうえ便覧を作成、各部署に配布し情報を共有します。</p> <p>●医療事故に対する対応について 発生した医療事故については、関係者から医療安全管理者へ迅速に報告し、その報告をもとに調査を行い、MRM（メディカルリスクマネジメント）委員会で分析したうえ、医療安全推進委員会で討議し対応の決定を行ないます。</p> <p>●院内感染対策について 感染防止委員会・リンクナース委員会をそれぞれ定期的に開催し、感染症発生の監視、院内感染の監視、職員の管理（予防接種等）、事故調査及び防止策の検討、職員に対する啓蒙と教育など、感染防止に対する取り組みを行ないます。</p>	<p>（医療安全管理体制について） 市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修の実施により、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。また、医療安全に関する情報公開の方法等については、病院年報において、インシデント・アクシデントの包括的公表を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会（毎月1回開催） ・医療安全カンファレンス（毎週1回開催） ・医療安全勉強会（年2回開催） <p>（医療事故に対する対応について） 医療事故発生時は、引き続き次の点について徹底し、院内の総力を挙げて迅速・的確に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の安全確保と救命処置を最優先します。 ・病院内における事故等の報告を速やかに行います。 ・患者・家族への事実の説明を誠実かつ速やかに行います。 ・重大な医療事故の場合は、保健所等関係機関へ速やかに報告・届出を行います。 ・事故の再発防止策を早期に検討し、職員に周知徹底します。 <p>（院内感染対策について） 院内の全ての人を院内感染から守るため、継続的に院内感染防止活動に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策委員会（毎月1回開催） ・ICT合同カンファレンス（偶数月参加） ・ICTラウンド（毎週1回開催） ・感染勉強会（年2回開催） ・院内感染対策に係る地域医療連携（合同カンファレンス 年2回参加） ・非常勤医師を含む全職員への院内感染対策を徹底します。 ・感染対策用として、マスク・消毒液等計画的に備蓄を行います。 	<p>（医療安全管理体制について） 市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修を実施しました。</p> <p>さらに、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。</p> <p>また、医療安全に関する市民への情報公開の方法等については、病院だよりにおいて、インシデント件数の包括的公表を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会、医療安全カンファレンスについて計画どおり実施しました。 ・医療安全勉強会 7/29 80名参加、 7/30 89名参加 7/31 78名参加 合計 247名参加 <p>（医療事故に対する対応について） 医療事故発生に備えて、日常から迅速・的確に対応できるよう体制整備に努めています。</p> <p>（院内感染対策について） 院内の全ての人を院内感染から守るため、継続的に院内感染防止活動に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策委員会、ICT合同カンファレンス、ICTラウンドについて計画どおり実施しました。 ・感染勉強会 7/29 80名参加、 7/30 89名参加 7/31 78名参加 合計 247名参加 <p>（院内感染対策に係る地域医療連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同カンファレンス 6/1 県総合医療センターで開催 9/29 WEB開催 <p>（新型コロナウイルス感染症対策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤医師を含む全職員への院内感染対策を徹底しました。（常時マスク着用の徹底、PCR検体採取時のマスク、ゴーグル、ガウン等個人防護具の装着の徹底） ・感染対策用として、マスク・消毒液等計画的に備蓄を行いました。 備蓄数(9月末) マスク 12,000枚、消毒液 100個等 ・4/14から5階東病棟において、一部分ゾーニングをして、疑似症患者の受け入れを開始しました。 ・4/27から5/31までは5階東病棟を全部休止し、疑似症患者の受け入れに当たりませんでした。 ・6/1以降の感染小長期には、5階東病棟を休棟から一部分のゾーニングに戻して、疑似症患者を受け入れました。 上半期疑似症患者受入人数 157人 ・新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の市内等医療機関との意見交換会参加 4/28、5/27 ・令和2年度上半期検査件数 PCR検査数 919件、抗原検査数 122件

<病院事業計画との対比>

病院事業計画	令和2年度中間報告
リスクマネジメント委員会	医療安全カンファレンス
医療安全推進委員会	医療安全管理委員会
感染防止委員会	院内感染対策委員会

<医療安全管理委員会>

医療安全管理委員会は、委員長を副院長、副委員長を看護部長とし、その他、医師、看護師、コメディカルの各部門の責任者で構成されています。

医療安全管理委員会では、院内でのインシデント(ヒヤリハット)・アクシデント事例の情報共有と対策を検討しています。

通常想定されないようなインシデント事例やアクシデント事例が発生した場合は、臨時に医療安全管理委員会を開催するとともに、生駒市に報告する体制ができています。

<医療安全カンファレンス>

医療安全管理委員会の下に設置し、前週のインシデントレポートについて参加者が報告・情報共有・対策等を検討しています。

<安全管理マニュアル>

各部門に医療安全管理委員(リスクマネージャー)を置き、各部門で作成した詳細マニュアルを運用しています。

(転倒転落、患者確認、口頭指示、体内遺残防止、診断検査の重大な結果報告、手術患者・手術部位の誤認防止、摘出された臓器・組織・検体の取扱など)

<医療安全勉強会の内容>

- ・合計 247名参加
- テーマ：「医療ガス総論」「医療放射線に係る安全管理のための職員研修」
- 講師：小谷臨床工学技士長、森田放射線科技師長

<院内感染対策委員会(ICT)>

院内感染対策委員会では、感染発生の監視、院内感染の監視、職員の管理(予防接種等)、事故調査及び防止策の検討を行っています。

令和2年4月からCOVID-19対応手引書を整備し、対応しています。

<ICT合同カンファレンス>

近隣の徳洲会グループ病院と合同で、近隣地域の感染症発生状況や各種サーベイランス等の討議報告を行っています。

<ICTラウンド>

各部署を巡回し、医療事故やインシデントが起きやすい環境(物品の配置等)を指摘し、各委員会で報告し、改善を促す活動のことです。

<感染勉強会の内容>

- ・合計 247名参加
- テーマ：「見直そう!スタンダードプリコーション」
- 講師：萩原看護師長

<院内感染対策に係る地域連携>

院内感染対策に係る地域連携として、看護師、薬剤師、検査技師で構成する感染防止対策チームが、専任の感染管理者を有する奈良県総合医療センターを中心とした合同カンファレンスに、白庭病院、東生駒病院とともに参加しました。

<新型コロナウイルス感染症対策会議>

- ・奈良県主催 新型コロナウイルス感染症に関する連絡会 20回参加
- ・県主催連絡会終了後、院長等3役中心のコロナ対策会議 20回開催
- ・各部門所属長参加の院内コロナ対策会議 15回開催(4/30~9/3)
- ・奈良県主催 新型コロナウイルス感染症小児科連絡会 5/12

・4/1から帰国者・接触者外来を立ち上げるとともに、発熱外来として、有熱エリアのゾーニングを行い対応しました。

- ・面会制限：4/14実施、6/25解除、7/23再実施
- ・来院者の検温確認：4/14から実施
- ・お見舞いメールの運用：59件(6/15から実施)
- ・オンライン面会：令和2年11月から実施予定

○院内感染対策に係る地域医療連携として、奈良県総合医療センターを中心とする合同カンファレンスに参加し、市内等病院間の相互理解や情報共有を行うことで、地域医療連携を強化している。

○医療安全勉強会及び感染勉強会については、同一内容の勉強会を複数回開催しており、できるだけ全職員が受講できるように努めている。

○新型コロナウイルス感染症疑似症患者を受け入れる際には、動線を明確に区分するなど院内感染対策が十分に行われている。

○新型コロナウイルス感染症疑似症患者を受け入れるに際して、休日夜間応急診療所や市内医療機関等と連携を密にし、市内医療機関等のバックアップの機能を果たしている。

○面会を制限する中で、お見舞いメールの運用等、市民の要望に応える取り組みを進めている。

課題

今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、院内における感染管理をより一層徹底するとともに、引き続き、奈良県をはじめとする関係機関と情報交換しながら、目まぐるしく変化する新型コロナウイルス感染症の状況に臨機応変に対応する必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト</p> <p>○地域完結型の医療体制構築への寄与 地域の病院がそれぞれの機能を分担し、かかりつけ医との連携も含めた地域完結型の医療を目指し、また、患者を中心とした継続性のある医療を提供するため、前方連携と後方連携を考慮し、周辺の地域医療機関との病診連携や病病連携を積極的に推進する。</p> <p>地域医療の支援に対する取組 ●在宅支援機能の充実 地域連携バスや退院支援チーム等の取組みにより、在宅支援診療所との連携を図りながら、在宅への移行支援を行ないます。また、急性期医療の患者を対象とした在宅医療システムを検討実施します。具体的には、在宅患者の増悪事に対応する処置、入院加療用として5床を確保します。</p> <p>●開放型病床の設置 地域の開業医と連携することにより、診療の一貫性が実現できることから、医師会と病床数や運営方法を協議の上、開放型病床を設置します。</p> <p>●地域医療機関への医療教育プログラムの提供 次の取組を検討し、段階的に実施します。 ・診療科による他医療機関との合同症例検討会の実施 ・院内外の医療従事者に対するTCLS※又はAHABLS、AHAACLSトレーニング（ACLSに相当する指定管理者のプログラム）の継続的实施（2年に1回程度） ・医療機関、救急隊との定期勉強会の実施（年2回程度） ※TCLS 二次医療機関で行う救命救急における心肺蘇生法で、アメリカ心臓協会が認定しているコースであるACLSのガイドラインに基づいた実際の医療機器を使用したシミュレーション実習のこと。</p>	<p>地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に貢献します。</p> <p>○在宅支援機能の充実について 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。 入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図ります。 地域医療連携室において、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携を推進します。</p> <p>○開放型病床の設置について 開放型病床については、医療連携登録医へのアンケート調査の実施により、ニーズを把握します。</p> <p>○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 地域医療従事者の資質向上を目的とした各種症例検討会、講演会、研修会、交流会を実施します。また、医療教育プログラムへの地域医療従事者の参加を促進するために、医療連携登録医へのアンケート調査を実施することで、ニーズを把握します。</p> <p>・医療教育プログラム 新生児蘇生法講習会（NCPR）、周産期救急講習会（ALSO）の実施</p> <p>・病診連携懇話会</p>	<p>地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に図りました。</p> <p>○在宅支援機能の充実について 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行いました。 入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図りました。 地域医療連携室において、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携を推進しました。</p> <p>（令和2年9月30日時点） ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 61施設</p> <p>・生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期。在宅医療介護推進部会には、地域医療連携室の職員が会員として参加。</p> <p>○開放型病床の設置について 開放型病床については、現時点では医療連携登録医からのニーズがなく、紹介元の開業医が、地域医療連携室において、紹介患者の電子カルテを閲覧し、患者データの共有ができていることから、導入には至りませんでした。</p> <p>・医療連携登録医へのアンケート調査については、下半期に実施予定</p> <p>○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 地域医療従事者の資質向上を目的とした研修会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は中止しました。</p> <p>・医療教育プログラム 新生児蘇生法講習会（NCPR）、周産期救急講習会（ALSO）は新型コロナウイルス感染症により、今年度は中止</p> <p>・病診連携懇話会は新型コロナウイルス感染症のため今年度は開催せず</p>

<医療連携登録医>

	R2中間	R1	増減
施設数	66	66	0

医療連携登録医は、医療連携登録医申請書の提出によるもの。

66施設の内、市内クリニックは29施設、35名

全市内クリニック（89施設）の32.6%

医療連携登録医からの紹介件数：442件（市内280件、市外162件）

（令和元年度上半期：医療連携登録医からの紹介件数：566件（市内 364件、市外 202件））

<協力医療機関連携施設>

	R2中間	R1	増減
施設数	61	60	1

協力医療機関連携施設（介護老人保健施設、グループホーム、特別養護老人ホームなど）と、連携契約書を締結しています。

※協力医療機関連携施設からの患者の救急車による搬送件数：13件

<入退院支援チーム>

市立病院の医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーにより、患者の退院の計画を作成しています。

入退院支援チームの実績（令和2年度4月～9月）

入退院支援加算 709件、介護支援連携指導 111件、退院時共同加算 18件、退院時訪問指導料 5件

<生駒市医療介護連携ネットワーク協議会在宅医療介護推進部会>

8/6 新型コロナウイルス感染症の医療・介護体制に関する課題等

9/30 新型コロナウイルス感染症に関する対応策（案）等

<開放型病床>

・患者のかかりつけ医と病院の医師が、共同して患者の治療を行える病床のこと。地域の先生方と連携して患者の治療にあたり、よりレベルの高い治療を目指すもので、要件として、20以上の診療所の医師登録、利用率20%以上の実績が求められます。

<NCPR(新生児蘇生法)>

標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習熟することにより、新生児の救命と重篤な障害の回避が期待されるものです。

<病診連携懇話会>

・医療連携登録医をはじめとした市内の診療所の医師を対象とした症例検討会の実施や市立病院への紹介件数や機器の共同利用実績の報告などを行うことにより、地域医療連携の推進を図るものです。

○在宅患者の増悪時の受け入れなど、在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院の役割を果たすため、市立病院と地域の医療機関等との連携が進められている。

○市の在宅医療・介護連携事業に参画することにより、市内の医療機関・介護事業所等のスタッフ間での「顔の見える」関係性づくりが進められている。

○医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーによる入退院支援チームの活動や入退院調整マニュアルの積極的な活用により、入退院支援加算件数が増加しており、退院後も切れ目のないケアを提供できている。

課題

在宅支援機能をさらに充実させるためには、市内の医療連携登録医を増やすことにより、地域の医療機関との連携強化をより一層図る必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>●周辺の他の医療機関との連携 新病院開院後は、医師会に加入し、医療機器の相互利用やグループ内専門医による研究会、合同カンファレンスの開催、医師会枠としての開放病床の取組を進めます。 また、連携に賛同された医療機関を写真入りで院内に公開する「かかりつけ医コーナー」を設置し、患者が自由に情報収集でき、希望に応じて紹介状の作成、予約確認等を行い案内するシステムを構築します。 また、地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携等を図る観点から、医師会の協力のもと、地域の診療所や病院を支援する医療機関として、将来的には「地域医療支援病院」の承認を目指します。</p>	<p>○周辺の他の医療機関との連携について 医師会への外来予定表、当直予定表等の情報提供を積極的に行い、医師会への入会を目指します。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、新たに導入したマンモグラフィ及び高気圧酸素治療装置など医療機器の共同利用を引き続き推進します。 市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、「顔の見える関係性」を深めるとともに、会議の場において、積極的に情報提供をします。</p> <p>共同利用件数（年間） MRI 280件 CT 100件 内視鏡 10件 エコー 35件</p> <p>医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の増大を目指し、積極的にPRします。</p> <p>（令和3年3月31日時点） ・医療連携登録医 72施設 ・協力医療機関連携施設 65施設</p> <p>地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、さらなる紹介率及び逆紹介率の向上を目指し、紹介された患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡の徹底に加え、紹介を受けた患者以外でも、病院での治療を終え症状が落ち着いたら、その後の継続した観察を必要に応じて地域の診療所に逆紹介します。</p> <p>・紹介率 35% ・逆紹介率 20%</p> <p>○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員（看護師1名・メディカルソーシャルワーカー3名・事務職員2名）を配置し、紹介・逆紹介及び入退院調整を推進します。 専任職員が地元医療機関を積極的に訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行います。 やまと西和ネットの活用により、近畿大学奈良病院をはじめ同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携を強化するとともに、来院患者への同ネット参加を呼び掛けます。 市が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図ります。</p>	<p>○周辺の他の医療機関との連携について 医師会への入会を目指し、毎月、市立病院の医療機能等の情報提供を続けました。 また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、医療機器の共同利用を実施しました。 市が開催する市内等医療機関と新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の意見交換会に参加しました。 4/28、5/27</p> <p>・医療機器の共同利用件数（4～9月） MRI 82件（全利用件数1,017件） CT 34件（全利用件数3,262件） 内視鏡 1件（全利用件数 832件） エコー 10件（全利用件数1,932件）</p> <p>医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の拡大を目指し、地域医療連携室の職員が地元医療機関を訪問し、登録のメリットを積極的にPRしました。</p> <p>（令和2年9月30日時点） ・医療連携登録医 66施設・81名 ・協力医療機関連携施設 61施設 ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数 1,548件（令和元年度上半期 802件）、 延べ255施設 令和元年8月以降、地域医療機関への情報提供について、従来郵送していた診療情報提供書と病院だよりの配布を郵送から直接訪問へと変更したため、件数が増加しました。</p> <p>地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介された患者の受け入れに努めました。 また、病状の安定した患者の逆紹介を促進するため、紹介を受けた患者については紹介元へ逆紹介することに加え、紹介を受けていない患者についても、地域医療連携室を通して、患者と相談しながら、患者の住居の周辺の医療機関などへの逆紹介に努めました。</p> <p>・紹介率 34.8% ・逆紹介率 15.2%</p> <p>○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員を配置し、紹介・逆紹介及び入退院調整を推進しました。 地域医療連携室の専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行いました。 やまと西和ネットに参加し、近畿大学奈良病院をはじめ同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携に努めています。 また、市が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図りました。</p>

令和2年度 中間報告の補足説明

取組の評価・課題

<医師会へ提供している情報>
市立病院の外来予定表、当直表、オンコール表など

○地域の医療機関への情報提供等訪問回数が増加しており、地域の医療機関への周知の取り組みが強化されている。

<医療機器のオープン利用>

	R2中間	R1中間	増減
MRI	82	143	△ 61
CT	34	59	△ 25
内視鏡	1	7	△ 6
エコー	10	5	5

○入院支援加算件数が増加しており、退院困難患者の早期抽出、入院早期の患者・家族との面談、多職種連携カンファレンスを実施するなど、入院早期から退院後の生活を見据えた医療と介護の切れ目のない支援が推進されている。

<医療連携登録医>

	R2中間	R1	増減
施設数	66	66	0

- ・医療連携登録医は、医療連携登録医申請書の提出によるもの。
- ・66施設の内、市内クリニックは29施設・35名
- ・全市内クリニック（89施設）の32.6%
- ・登録医であることを周知する登録医プレートを全登録医に配布

○地域医療機関との病病・病診連携が推進されたことにより、患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡が徹底されている。

<協力医療機関連携施設>

	R2中間	R1	増減
施設数	61	60	1

協力医療機関連携施設（介護老人保健施設、グループホーム、特別養護老人ホームなど）と、連携契約書を締結しています。

課題

医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応する必要があるため、地域医療機関との病病・病診連携の推進を図る必要がある。

<紹介率・逆紹介率等>

	R2中間	R1中間	増減
紹介率	34.8	33.7	1.1
逆紹介率	15.2	14.7	0.5
地域（市内）医療機関の市立病院利用率	78.7	67.8	10.9

- ・紹介率（紹介初診患者数＋初診救急患者数）÷初診患者数
 $(1,369+890) \div 6,492=34.8\%$
- ・逆紹介率 逆紹介患者数÷初診患者数
 $987 \div 6,492=15.2\%$
（参考：紹介元の医療機関に返した入院患者数÷紹介による入院患者数）
 $232 \div 239=97.1\%$
- ・地域（市内）医療機関の市立病院利用率
市内で紹介を受けた内科医療機関数÷市内内科医療機関数
 $70 \div 89=78.7\%$

<地域医療連携室>（令和2年9月30日現在）

- ・看護師 1名
- ・メディカルソーシャルワーカー 3名（内非常勤 1名）
- ・事務員 2名

<入院支援加算>

	R2中間	R1中間	増減
件数	709	565	144

<やまと西和ネット>

- ・西和医療圏（生駒市他1市7町の医療機関、介護事業所を利用される方の病気、薬などの情報を共有（事務局：近畿大学奈良病院内、一般社団法人西和医療圏地域医療介護連携推進協議会）
参考：令和2年9月末現在参加施設数 48施設

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告																	
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○救急医療の充実 本地域における二次救急医療に対応できる中核病院の必要性から、内科系、外科系、小児科系の二次救急医療の充実を図る。</p> <p>●救急医療体制 市内の二次救急体制で中心的な役割を果たすことを目指し、内科系二次・外科系一次二次輪番体制へ参加するとともに、北和小児科二次輪番体制等への参加や休日夜間応急診療所のバックアップを行います。さらに、救急告示病院として、市消防本部救急隊との連携連絡を緊密にし、かつ当直体制を開示し、24時間体制での救急受入れをします。</p> <p>（具体的な体制）</p> <table border="1" data-bbox="98 797 478 1294"> <thead> <tr> <th>診療分野</th> <th>稼働内容</th> <th>稼働回数 (1月あたり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科系</td> <td>市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加</td> <td>内科系 5回</td> </tr> <tr> <td>外科系</td> <td>同上</td> <td>外科系 5回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小児科</td> <td rowspan="2">奈良県北和小児科二次輪番体制への参加</td> <td>休日 2回</td> </tr> <tr> <td>夜間 2回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">産婦人科 (※2)</td> <td rowspan="2">奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加</td> <td>10回 (※1)</td> </tr> <tr> <td>10回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 現在、休日夜間応急診療所（メディカルセンター）で小児科医師が当直している火・木・土・日（うち火・木は22:00～24:00の当直）以外の曜日を小児一次救急担当日とし、開院当初は、当該担当日の月・水・金は20時から24時までは総合診療医を配置します。ただし、開院後3年を目途に小児科医師を1名増員することで小児救急の充実を図ります。</p> <p>※2) 産婦人科については、一次・二次診療を行います。産婦人科緊急手術、分娩、ハイリスク分娩に対応します。但し、未熟児分娩が予想される場合はNICUを有する北和三次救急施設と緊密な連携を取り迅速な対応をします。</p>	診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月あたり)	内科系	市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系 5回	外科系	同上	外科系 5回	小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回	夜間 2回	産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	10回 (※1)	10回	<p>救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受け入れ体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指します。</p> <p>奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施します。</p> <p>○救急医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急受入件数 1,600件 救急応需率 95.0% <p>・市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、救急医療の連携強化を目指します。</p> <p>・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、奈良県との情報交換をしながら、小児二次医療体制の整備に努めます。</p> <p>・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な県からの参加要請に対応できるように、産婦人科診療体制を整備します。</p>	<p>救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受け入れ体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を努めました。</p> <p>奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施しました。</p> <p>○救急医療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急受入件数 890件（市内 528件、市外 362件） 救急応需率 94.1% <p>・下半期に市主催の市内等病院との意見交換会に参加予定</p> <p>・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たしました。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、引き続き北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席し、情報交換を行うとともに、小児科常勤医師を増員しました。</p> <p>・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるように、産婦人科常勤医師のさらなる確保に努めました。</p>
診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月あたり)																	
内科系	市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系 5回																	
外科系	同上	外科系 5回																	
小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回																	
		夜間 2回																	
産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	10回 (※1)																	
		10回																	

令和2年度 中間報告の補足説明

取組の評価・課題

〈救急要請件数〉

	R2中間	R1中間	増減
件数	946	825	121

〈救急受入件数〉

	R2中間	R1中間	増減
市内	528	483	45
市外	362	323	39
計	890	806	84

〈救急応需率〉

	R2中間	R1中間	増減
救急受入件数÷救急要請件数	94.1%	97.7%	△3.6%

〈ウォークイン患者受入件数〉

	R2中間	R1中間	増減
件数	1,945	1,183	762
月平均	324.2	197.2	127.0

〈救急患者の転送件数〉

	R2中間	R1中間	増減
受入件数	890	806	84
県内転送	49	18	31
県外転送	12	8	4
転送計	61	26	35

〈救急患者の転送率〉

	R2中間	R1中間	増減
県内転送	5.5%	2.2%	3.3%
県外転送	1.4%	1.0%	0.4%
転送計	6.9%	3.2%	3.7%

<参考：生駒市消防の救急搬送状況（全時間帯）>※

	R2中間	R1中間	増減
市内	69.7%	68.1%	1.6%
市立病院	25.9%	20.6%	5.3%
その他病院	43.8%	47.5%	△3.7%

<参考：生駒市消防の救急搬送状況（当直時間帯）>※

	R2中間	R1中間	増減
市内	65.7%	63.3%	2.4%
市立病院	29.0%	21.7%	7.3%
その他病院	36.7%	41.6%	△4.9%

※市消防本部提供、速報値

<市内等輪番病院のバックアップ状況>

	R2中間	R1中間	増減
バックアップ率	48%	45%	3.0%

計算式

救急患者を市内等輪番病院が当番日に受け入れできなかった件数のうち、生駒市立病院が受け入れた件数
 (R2中間：55件÷115件、R1中間：56件÷124件)

・7/30 令和2年度第1回北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席（WEB開催）

○24時間365日救急患者の受け入れ体制を整えていることから、高い救急応需率を維持している。

○ゴールデンウィーク以降、休日・夜間の新型コロナウイルス感染症疑い患者の対応について、休日夜間応急診療所との連携体制を構築した。

課題

市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、引き続き関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現していく必要がある。

小児科常勤医師を増員したことから、北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、医療体制を整備する必要がある。

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告										
<p>●救急に対する人員体制 医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師及び事務職員の当直体制をとります。</p> <p>（具体的な体制）</p> <table border="1" data-bbox="98 387 478 716"> <thead> <tr> <th colspan="2">人員体制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常時</td> <td>内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制</td> </tr> <tr> <td>北和小児科二次輪番日</td> <td>通常時当直体制＋小児科医師1名の当直</td> </tr> <tr> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日</td> <td>通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置</td> </tr> <tr> <td>北和産婦人科一次救急当日</td> <td>通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直</td> </tr> </tbody> </table>	人員体制		通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制	北和小児科二次輪番日	通常時当直体制＋小児科医師1名の当直	休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置	北和産婦人科一次救急当日	通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直	<p>○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に脳神経外科、整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直・オンコール体制のさらなる充実を目指します。</p> <p>（夜間救急受入体制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師 1名の時間外担当医及び1名の常勤当直医 専門医によるオンコール体制 ・外来看護師 2名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員 各1名の当直 	<p>○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を整備するとともに、当直・オンコール体制のさらなる充実を図りました。</p> <p>（夜間救急受入体制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師 1名の時間外担当医及び1名の常勤当直医の2名体制 専門医(各診療科)によるオンコール体制 ・外来看護師 2名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員 各1名の当直
人員体制												
通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制											
北和小児科二次輪番日	通常時当直体制＋小児科医師1名の当直											
休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制＋総合診療医1名を20時～24時の間で配置											
北和産婦人科一次救急当日	通常時当直体制＋産婦人科医1名の当直											
<p>●診療科毎の対応レベル</p> <table border="1" data-bbox="98 824 478 1411"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>小児科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可</td> </tr> <tr> <td>産婦人科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)</td> </tr> </tbody> </table>		対応レベル	内科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)	外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)	小児科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可	産婦人科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)	<p>○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続します。また、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を充実します。</p> <p>産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き奈良県総合医療センターとの連携体制で対応します。</p>	<p>○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続しました。また、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を維持しました。</p> <p>産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き奈良県総合医療センターとの連携体制が確立しています。</p>
	対応レベル											
内科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)											
外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例：重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)											
小児科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可											
産婦人科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)											

令和2年度 中間報告の補足説明	取組の評価・課題																								
<p><医師のオンコール体制> 消化器内科、循環器内科、外科、形成外科、腎臓泌尿器科、産婦人科、小児科</p> <p>・脳神経外科については、他病院との連携体制で対応 連携実績</p> <table border="0"> <tr> <td>近畿大学奈良病院</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>奈良県総合医療センター</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>市立奈良病院</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>野崎徳洲会病院</td> <td>10件</td> </tr> </table> <p>・当直時間帯でのCT、MRI検査、心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術の各実績</p> <table border="0"> <tr> <td>CT</td> <td>799件</td> <td>(R1上半期実績</td> <td>734件)</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>38件</td> <td>(R1上半期実績</td> <td>72件)</td> </tr> <tr> <td>心臓カテーテル検査</td> <td>6件</td> <td>(R1上半期実績</td> <td>9件)</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査</td> <td>6件</td> <td>(R1上半期実績</td> <td>3件)</td> </tr> </table>	近畿大学奈良病院	5件	奈良県総合医療センター	4件	市立奈良病院	4件	野崎徳洲会病院	10件	CT	799件	(R1上半期実績	734件)	MRI	38件	(R1上半期実績	72件)	心臓カテーテル検査	6件	(R1上半期実績	9件)	内視鏡検査	6件	(R1上半期実績	3件)	<p>○当直可能な医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員による24時間365日の救急受入体制が維持されている。</p> <p>課題 当直・オンコール体制に参加できる脳神経外科及び整形外科の常勤医師の確保に努める必要がある。</p> <p>○24時間365日、病院事業計画に掲げるCT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院並びに心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術に対応可能な体制が継続されている。</p>
近畿大学奈良病院	5件																								
奈良県総合医療センター	4件																								
市立奈良病院	4件																								
野崎徳洲会病院	10件																								
CT	799件	(R1上半期実績	734件)																						
MRI	38件	(R1上半期実績	72件)																						
心臓カテーテル検査	6件	(R1上半期実績	9件)																						
内視鏡検査	6件	(R1上半期実績	3件)																						

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告																																								
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○小児医療の充実 本地域における小児二次医療の充実の必要性から、地域医療機関との役割分担のもと、二次医療までの対応が可能な小児医療を提供する。</p>	<p>小児の救急対応、入院患者の受入れ等小児二次医療体制の整備を行います。</p> <p>○小児医療体制について ・医師の人員体制は、常勤医師の確保により、常勤医師2名体制を目指します。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加を目指します。</p>	<p>小児の入院患者の受入れ等小児二次医療体制の整備に努めました。</p> <p>○小児医療体制について ・平成30年1月に着任した常勤医師に加えて、令和2年7月に常勤医師を確保し、常勤医師2名体制になりました。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加を目指し、WEB会議での北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席しました。</p>																																								
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○災害時医療の確保 大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な応急用医療資機材等を備えるなど、災害に対する緊急対応ができる機能を確保する。</p>	<p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備します。</p> <p>○災害時医療体制の確立について 災害対策マニュアルに沿って現場スタッフや地域住民による実地訓練を行います。</p> <p>・消防訓練（通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練） ・防災訓練（トリアージ・患者受入訓練・机上訓練） 市が実施する総合防災訓練に参加し、市や市医師会及び市内病院との災害時の連携を強化します。</p> <p>市が開催する市内等病院との意見交換会に参加し、病病連携強化を図ります。</p>	<p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な体制整備をはじめ、機能の強化に引き続き努めました。</p> <p>○災害時医療体制の確立について</p> <p>・8/19 消防訓練実施（通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練）</p> <p>・防災訓練（トリアージ・患者受入訓練）は下半期に実施予定</p> <p>・市が開催した新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の意見交換会に参加 4/28、5/27</p>																																								
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○予防医療の啓発 市立病院であることから、市民の公衆衛生意識の高揚を図るための講習を行うなど、市の保健行政と連携し、保健知識の啓発を図る。</p> <p>●疾病予防機能の強化について 疾病予防に向けて、メタボリック・シンドロームや生活習慣病等についての医療講演会を定例的に開催します。（講演会の講師は医師、看護師、管理栄養士、理学療法士等病院内のスタッフや院外の医療従事者が務めます。） また、市民健診や予防接種について、市医師会と連携して、二次健診の分担等の協力体制を整備します。</p>	<p>市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供します。</p> <p>また、市民健診については、地域の診療所では対応できない、又は対応できる医療機関が少ない二次検診等を充実していきます。</p> <p>○疾病予防機能の強化について 市民への予防医療の啓発として、認知症やうつ病、在宅医療など、市民の要望が多いものの市立病院スタッフで対応できない分野について、市が実施する医療講演会等に対して協力します。</p> <p>また、市民との交流、健康づくりを推進するため、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施します。</p> <p>市民健診において、子宮頸がん検診は、4月から実施し、乳がん検診は、4月以降関係機関と協議のうえ、今年度中の実施を目指します。</p> <p>また、二次検診の受診率向上を目指し、健診後の電話事前予約など、待ち時間の短縮等を図ります。</p> <p>・医療講演会（自治会等各種団体への出張講座含む） 月4回程度実施 ・拡大医療講演会を年4回程度開催（市内北・中・南の3地区で開催）</p> <p>・市民健診</p> <table border="0"> <tr><td>大腸がん検診</td><td>350件</td></tr> <tr><td>胃がん(胃内視鏡)検診</td><td>100件</td></tr> <tr><td>肝炎ウイルス検診</td><td>15件</td></tr> <tr><td>特定健診</td><td>1,000件</td></tr> <tr><td>一般健診</td><td>1,100件</td></tr> <tr><td>人間ドック・脳ドック</td><td>950件</td></tr> <tr><td>その他団体健診等</td><td>1,500件</td></tr> </table> <p>・高齢者定期予防接種</p> <table border="0"> <tr><td>インフルエンザ</td><td>450件</td></tr> <tr><td>肺炎球菌</td><td>60件</td></tr> </table>	大腸がん検診	350件	胃がん(胃内視鏡)検診	100件	肝炎ウイルス検診	15件	特定健診	1,000件	一般健診	1,100件	人間ドック・脳ドック	950件	その他団体健診等	1,500件	インフルエンザ	450件	肺炎球菌	60件	<p>市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供しました。</p> <p>また、二次健診の受診増を目的として、市内医療機関への医療機能についての情報提供を充実しました。</p> <p>○疾病予防機能の強化について 市民との交流、健康づくりを推進するため、自治会等各種団体への出張講座の積極的な実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できませんでした。</p> <p>また、子宮頸がん検診については令和2年4月から実施し、乳がん健診については下半期からの実施に向けて、体制を整備しました。</p> <p>・医療講演会 22講座 参加者 243名 （内オンライン開催13講座 参加者47名） ・拡大医療講演会を北地区において、5月17日開催予定で自治会関係者等と調整しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。</p> <p>・市民健診</p> <table border="0"> <tr><td>大腸がん検診</td><td>138件</td></tr> <tr><td>胃がん(胃内視鏡)検診</td><td>27件</td></tr> <tr><td>子宮頸がん検診</td><td>91件</td></tr> <tr><td>肝炎ウイルス検診</td><td>6件</td></tr> <tr><td>特定健診</td><td>355件</td></tr> <tr><td>一般健診</td><td>678件</td></tr> <tr><td>生活保護者等の健康診査</td><td>3件</td></tr> <tr><td>人間ドック・脳ドック</td><td>545件</td></tr> <tr><td>その他団体健診等</td><td>1,470件</td></tr> </table> <p>・高齢者定期予防接種</p> <table border="0"> <tr><td>肺炎球菌</td><td>37件 (R1上半期36件)</td></tr> <tr><td>インフルエンザ予防接種</td><td>下半期に実施予定</td></tr> </table>	大腸がん検診	138件	胃がん(胃内視鏡)検診	27件	子宮頸がん検診	91件	肝炎ウイルス検診	6件	特定健診	355件	一般健診	678件	生活保護者等の健康診査	3件	人間ドック・脳ドック	545件	その他団体健診等	1,470件	肺炎球菌	37件 (R1上半期36件)	インフルエンザ予防接種	下半期に実施予定
大腸がん検診	350件																																									
胃がん(胃内視鏡)検診	100件																																									
肝炎ウイルス検診	15件																																									
特定健診	1,000件																																									
一般健診	1,100件																																									
人間ドック・脳ドック	950件																																									
その他団体健診等	1,500件																																									
インフルエンザ	450件																																									
肺炎球菌	60件																																									
大腸がん検診	138件																																									
胃がん(胃内視鏡)検診	27件																																									
子宮頸がん検診	91件																																									
肝炎ウイルス検診	6件																																									
特定健診	355件																																									
一般健診	678件																																									
生活保護者等の健康診査	3件																																									
人間ドック・脳ドック	545件																																									
その他団体健診等	1,470件																																									
肺炎球菌	37件 (R1上半期36件)																																									
インフルエンザ予防接種	下半期に実施予定																																									

令和2年度 中間報告の補足説明	取組の評価・課題																																																								
<ul style="list-style-type: none"> 小児科外来診療は、月～金までの間、常勤2名、非常勤医師2名による一診体制 未熟児出産に関しては、NICUをもつ近畿大学奈良病院と連携しています。 7/30 令和2年度第1回北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席（WEB開催） 	<p>○産婦人科と連携し、当院出生児の診察や1ヶ月健診を担当し、安心して出産できる体制を構築している。</p> <p>○小児アレルギー外来では、アレルギー専門医が、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などの小児アレルギー疾患に対応している。</p> <p>課題 小児救急の実施に向けて、引き続きさらなる常勤医師の確保に努める必要がある。</p>																																																								
<p><消防訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> 8/19 実施 訓練参加人数 30人 通報訓練、避難誘導訓練を実施した後、初期消火訓練の実施により、消防設備の位置、内容等について実地確認をし、確実に初期消火が行える体制を整えることができました。 	<p>○消防訓練を実施したことにより、参加職員の防災意識の向上に繋がっている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関する意見交換会に参加して連携体制について協議し、休日夜間応急診療所や市内医療機関等のバックアップ機能を果たしている。</p>																																																								
<p><医療講演会></p> <table border="1" data-bbox="161 954 786 1032"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2中間</th> <th>R1中間</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>△ 6</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>243</td> <td>728</td> <td>△ 485</td> </tr> </tbody> </table> <p><医療講演会の内容例></p> <ul style="list-style-type: none"> 乳がんについて 高気圧酸素治療について 不眠症と睡眠薬について お家でできる感染対策 超音波（エコー）検査でわかること <p><市民健診></p> <table border="1" data-bbox="161 1317 786 1603"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2中間</th> <th>R1中間</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大腸がん検診</td> <td>138</td> <td>176</td> <td>△ 38</td> </tr> <tr> <td>胃がん（胃内視鏡）検診</td> <td>27</td> <td>68</td> <td>△ 41</td> </tr> <tr> <td>子宮頸がん検診</td> <td>91</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>肝炎ウイルス検診</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>特定健診※1</td> <td>355</td> <td>505</td> <td>△ 150</td> </tr> <tr> <td>一般健診</td> <td>678</td> <td>596</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>生活保護者等の健康診査※2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人間ドック・脳ドック</td> <td>545</td> <td>513</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>その他団体健診等</td> <td>1,470</td> <td>1,269</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,313</td> <td>3,135</td> <td>178</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 生活習慣病を予防・早期発見するための健診です。 ※2 健康増進法施行規則第4条の2第4号に定める健康診査</p>		R2中間	R1中間	増減	件数	22	28	△ 6	参加者数	243	728	△ 485		R2中間	R1中間	増減	大腸がん検診	138	176	△ 38	胃がん（胃内視鏡）検診	27	68	△ 41	子宮頸がん検診	91			肝炎ウイルス検診	6	5	1	特定健診※1	355	505	△ 150	一般健診	678	596	82	生活保護者等の健康診査※2	3	3	0	人間ドック・脳ドック	545	513	32	その他団体健診等	1,470	1,269	201	合計	3,313	3,135	178	<p>○医師、看護師、薬剤師等による予防医療の啓発に向けた医療講演会を幅広い内容で開催している。</p> <p>○市立病院として市民の健康づくりや疾病予防を図るため、コロナ禍においても可能な限りオンライン医療講演会を開催するなど、できる限り市民との交流、健康づくりの推進に努めている。</p> <p>課題 市民の健康づくりや疾病予防を促進するために、コロナ禍が収まった折には、院内講演の充実に加え、できる限り自治会や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて出張講座を実施し、より一層広域的に市民に啓発する必要がある。</p>
	R2中間	R1中間	増減																																																						
件数	22	28	△ 6																																																						
参加者数	243	728	△ 485																																																						
	R2中間	R1中間	増減																																																						
大腸がん検診	138	176	△ 38																																																						
胃がん（胃内視鏡）検診	27	68	△ 41																																																						
子宮頸がん検診	91																																																								
肝炎ウイルス検診	6	5	1																																																						
特定健診※1	355	505	△ 150																																																						
一般健診	678	596	82																																																						
生活保護者等の健康診査※2	3	3	0																																																						
人間ドック・脳ドック	545	513	32																																																						
その他団体健診等	1,470	1,269	201																																																						
合計	3,313	3,135	178																																																						

病院事業計画（平成27年11月改定）	令和2年度 事業計画	令和2年度 中間報告
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○市民参加による運営 条例で設置された市民の代表が参加する病院事業推進委員会において、運営の基本となる病院事業計画、指定管理者との協定及び運営状況の改善について審議し、市民参加による病院運営を実現する。</p>	<p>市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進します。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、各種市民交流行事を開催します。</p> <p>○市民の意見の反映の仕組み 入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見、改善の取組及び対応できない理由について、院内掲示、ホームページでの公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告など広く市民等に周知します。 また、年度事業報告書に係る実施状況調査（中間報告を含む）について市立病院管理運営協議会等で評価、意見聴取し、年度事業計画に反映します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院事業推進委員会 ・市立病院管理運営協議会 ・入院・外来患者アンケート調査 ・ご意見箱の内容に対する対応 <p>○市民交流事業について 市立病院を市民に親しみを感じてもらうために、市民交流事業を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康フェスティバル ・院内コンサート等 	<p>市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進しました。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、市民交流行事として健康フェスティバルを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度は中止しました。</p> <p>○市民の意見の反映の仕組み 退院時患者アンケート調査等の結果、改善の取組及び対応できない理由について、下半期には、ホームページや病院だよりでの公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告等を行い、広く市民等に周知する予定です。 また、年度事業報告書に係る実施状況調査について市立病院管理運営協議会で評価、意見聴取し、次年度の事業計画作成時に反映させる予定です。</p> <p>〈健康フェスティバル〉 6月21日開催予定で準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により今年度は中止</p> <p>〈院内コンサート〉 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、下半期の実施については未定</p>
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○環境に配慮した運営 新病院の運営にあたっては、環境マネジメントシステムであるISO（国際標準化機構）14000シリーズの認証取得を目指す。</p>	<p>引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパーなど資源ごみの分別回収を強化します。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知することで、院内での省エネルギー化の啓発を図ります。 	<p>引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパーなど資源ごみの分別回収を強化しました。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知し、院内での省エネルギー化の啓発を図りました。

令和2年度 中間報告の補足説明	取組の評価・課題
<p><生駒市病院事業推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> 5/31 第24回会議 会議内容 令和2年度における生駒市立病院の管理運営に関する年度協定書(案)について (新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、WEB会議にて開催) <p><生駒市立病院管理運営協議会></p> <ul style="list-style-type: none"> 7/30 令和2年度第1回会議開催 会議内容 令和元年度実施状況調査報告書(案)について <p><ご意見箱の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 先生、看護師さんをはじめ皆さんに大変良くしていただきました。 案内係の男性、正面玄関の警備員に親切に対応していただきました。 美味しい病院食をいただきありがとうございました。 入院病室の前に消毒液を置いてほしいです。(回答：現在、全病室の前に消毒液を配置しました。) 皮膚科の待ち時間があまりにも長すぎます。予約制にしてください。(回答：事前予約が可能となるように前向きに検討します。) <p>令和2年度上半期意見総数：入院 6件、外来 6件 合計 12件</p>	<p>○生駒市病院事業推進委員会では、市民委員も参画しており、市立病院からの情報を提供し、委員からの意見・提案を受けるなど、市民参加の病院運営に繋がっている。</p> <p>○生駒市立病院管理運営協議会では、指定管理者から提出された前年度の事業報告及び当年度の中間報告について、市が実施状況調査をした内容が報告されているほか、市民等の会員からの評価や課題等についての意見・提案を直接、市長や院長に伝えることができる場となっている。さらには、次年度事業計画に反映する仕組みが整えられている。</p>
	<p>○市と同等の取組みが実施されている。</p>
<p><院内保育所></p> <p>院内7階/バンビ保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育時間 日勤 8:00～17:30 (365日) 夜勤 16:00～翌日10:00 (週1回 火) 保育園児 対象 生後2か月～10歳 (医師・看護職員のお子さん) 保育士 人員 常時2名以上 <p>上半期実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育児童数 一日平均 5.9人 (R1上半期実績 9人) 24時間保育運営日数 12日 (R1上半期実績 24日) 休日保育運営日数 30日 (R1上半期実績 34日) 	

収支

(単位 千円)

令和2年度事業計画 (令和2年9月末)	令和2年度中間報告	計画と報告の差額
医業収入 1,898,298	医業収入 1,534,372	医業収入 △ 363,926
医業費用 1,928,944	医業費用 1,690,355	医業費用 △ 238,589
医業利益 △ 30,646	医業利益 △ 155,983	医業利益 △ 125,337
その他費用 128,434	その他費用 128,764	その他費用 330
医業外収益 10,000	医業外収益 18,678	医業外収益 8,678
医業外費用 0	医業外費用 5,665	医業外費用 5,665
経常利益 △ 149,080	経常利益 △ 271,734	経常利益 △ 122,654